

令和3年度 全特活「冬季一日研究会」(指導講評資料)

○はじめに

— 「3つの実践報告」 に学び考えよう —



小学校の学級会



中学校の学級会

1. 「用語」について

- ① 「主体的」と「自主的」、「様々な」と「多様な」・・・
- ② 「望ましい集団活動」、「話し合い活動」、「集団決定」と「合意形成」「自己決定」と「意思決定」・・・
- ③ 「司会グループ」と「計画委員会」、
「議長」と「司会」・・・
「問題」と「課題」



● 第1 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のと

おり

● 第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

1 目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

2 内容

1の資質・能力を育成するため、全ての学年において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2. 「議題」をめぐって

- ① 「望ましい議題」と「年間指導計画」について
- ② 「オリエンテーションの意義」と指導の工夫
- ③ 指導案における「議題選定の理由」と「活動計画」、
「選定と設定」など

「議題」の考え方

「望ましい議題」の条件

議題を計画委員会で選定し、学級全員で決定する際の判断規準となるものとして、次のようなことが考えられている。

- ① 児童にとって必要性が高い問題か
→ 時期的にどうか、他に優先しなければならないことが
- ② 学級生活をよりよく豊かにする問題か
→ よりよい活動になるという期待が持てる活動か
- ③ 全員で協力しなければ実現できない問題か
→ 一部の児童だけに関わる問題ではないか、全員の協力が必要か
- ④ 決めたことが自分達で具体的に実行できる問題か
→ 時間的にも労力的にも実際の見通しが立つことが
- ⑤ 創意工夫の余地のある問題か
→ 自分達なりの創意工夫が生かされることが

児童の自主的な活動として相応しくない議題

- 個人情報やプライバシーの問題
- 相手を傷つけるような結果が予想される問題
- 教育課程の変更に関わる問題
- 校内のきまりの変更や施設・設備の利用などに関わる問題
- 金銭の徴収に関わる問題
- 健康・安全に関わる問題

○年間計画の「予想される議題例」

学級活動年間指導計画 【小学校 第1学年】

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学級における望ましい集団活動を通して、よりよい人間関係や豊かな生活づくりに取り組もうとする自主的、実践的な態度を育てよう ○教師が規範を示しながら指導する。 ○学級活動(1)学級会の指導においては、集団(活動)目標を集団討論し、みんなの思いを生かしながら集団決定して集団実践するための基本型を定規し、協力して楽しく活動できるようにする。 ○学級活動(2)(3)の指導においては、自己の課題の解決や実践の仕方を集団思考し、自己の意思(目標)を自己決定して、進んで活動できるようにする。 					
学級活動の内	(1)学級や学校における生活づくりへの参画【16時間】	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	(3)一人一人のキャリア形成と自己実現【(2)・(3)は合わせて16時間】	恒時間で指導する題材	児童会活動・学校行事等の予定	
	予想される議題例	指導上の留意点	題材	指導上のねらい・留意点		
4	<ul style="list-style-type: none"> ○「どうぞよろしの会」をしよう ○係を決めよう ○子どもの日のお祝いをしよう ○運動会の色別隊に何を描くか決めよう ○教室での楽しい過ごし方を考えよう ○七夕かざりをつくらう 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会とはどんなことをするのか、オリエンテーションを通し理解させる。 ○議題は、最初は教師から提示し、様々なことができることを、活動経験を通して知ることができるように支援する。 ○計画委員会(可会グループ)は、最初は教師 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生になって(3)イ(3)ア ○学校の約束(2)ア ○安全な昼下校(2)ウ ○みんなで掃除(3)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の学習や生活を知り、不安や悩みを解消し、だれでも仲よく協力して過ごすことができるようにする。 ○みんなが楽しく過ごすために約束があることを知り、それらを守って生活できるようにする。 ○昼下校時の道路の歩き方や横断歩道の渡り方について、自分たちならどうするか考え、交通ルールを守って安全に気を付け実践できる。 ○道具の使い方や掃除の仕方を知り、自分たちできれいにしようとする態度を育て 	<ul style="list-style-type: none"> ●返事の仕方 ●トイレの使い方 ●正しい姿勢 ●給食の準備の仕方 ●下校時での下校の仕方 ●本の借り方返し方 ●忘れ物をしないために 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・1年生を迎える会 ・全校遠足 ・近距離練習(地震) ・引き渡し訓練 ・交通安全教室 ・運動会 ・新体力テスト ・夏休みの宿題

学級活動年間指導計画 【中学校 第1学年】

学 期	時 月	学 級 活 動	学校行事等	生徒会活動等	学級の諸活動等
		(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (予想される議題例)	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	(3)一人一人のキャリア形成と自己実現	
前 期	1 2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ○「3つの柱」と「3段階目標法」 ○入学祝いの会の計画を立てよう ○学級の係を決めよう ○学級レクの計画を立てよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・入学式 ・修学旅行④ ・宿泊学習① ・授業参観 ・部活動結成 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外生徒会 ・専門委員会 ・中央委員会 ・生徒集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の目標 ・学級のおゆみ ・学級活動コーナー ・議題ポスト ・清掃、給食当番表 ・部活動について ・連絡黒板の活用

学級会の議題例

- ・学級の係を決めよう
- ・〇年生もがんばろうね会をしよう
- ・学級のボールの使い方を決めよう
- ・夏休み作品展の計画を立てよう
- ・室内オリンピックの計画を立てよう
- ・学級新聞コンクールをしよう
- ・学級文庫を楽しくしよう
- ・廊下のクラス紹介コーナーの使い方を決めよう
- ・学級文化祭の計画を立てよう
- ・卒業文集の内容を決めよう
- ・学級カルタ（すごろく）をつくろう
- ・学校に紙芝居を作って残そう
- ・クラスの卒業を祝う会をしよう など



○オリエンテーションの工夫

—意図的・計画的な教師の指導—

- A型・・・学級会の必要性・意識について
(学級活動(2)イ・(3)ア「0年生になって」の中で)
- B型・・・「望ましい議題例」などを考える
- C型・・・「係と当番」などについて
- D型・・・よりよい計画委員会の進め方について
- E型・・・学級会の直前に柱1について
- F型・・・話合いの深め方等について
- G型・・・2学期、3学期はじめ
- H型・・・学期末・学年末に向けた取組について

3 本時の活動計画

決まっていること

○やる日

5月11日(木)

3時間目

○場所 教室

○ゲームを2つ、ゲーム以外を1つ決める。

○みんながうれしく、がんばろうと思えるような会にする。

○プログラム

- 1 始めの言葉
- 2 楽しい会にするための約束の確認
- 3 歌
- 4 ゲーム(2つ)
- 5 ゲーム以外
- 6 先生の話
- 7 終わりの言葉

だい / かい キラキラえががお学きゅう会のけいかく		4月25日(火)	
きだい「2年生もかみばろうねかし」をしよう。			
きだいを出した人	はらゆみえさん、たん田そらさん		
きだいを出したわけ	2年生になつていろいろなかをかみばりたいから。 みんなでおみはれおもちとなかよくたのしいクラスになるから。		
しかいグループ	しかい	こくばんきろく	ノートきろく
	くす田りくくん たのまなみさん	たかほしあいらん すが木らうたくん	みなとかりなさん
話しあいのじゅんじょ		気をつけること	
1	はじめのことば	大きな声ではっきりとさう。	
2	うた	ふりつけをしたのしくうたう。	
3	かかりのしょうかい	めあてをはっきりとつたえる。	
4	きだいのたしかめ	みんなといしにかくにんする。	
5	きだいを出したわけ	ゆみえさんとそらさんにきいてもらう。	
6	きまっていることのためたしかめ	ノートきろくのかりなさんにきいてもらう。	
7	話しあひ	くらべあうからはしめる。	
	話しあうこと(1) なにを転かきめよう。	ゲームとゲームいがいいにわけてきめる。 ゲームを2つ、ゲームいがいいを1つきめる。	
3	話しあうこと(2) かみを盛り上げるくふうをかみかえよう。	たかさんの人によ、ひょうをきいてもらう。 きだいをき出したわけをたいせつにし、ききあう。	
	話しあうこと(3) かかりをきめよう。	人づうをきめてかかりをきめる。 おおからたらすくないところにいどうしてもらう。	
8	きまったことのためたしかめ	ノートきろくのかりなさんにきいてもらう。	
9	ふりかえり	ふりがえりカードに書く。	
10	先生の話	先生の話をし、かりやく。	
11	おわりのことば	大きな声ではっきりとさう。	

4 指導上の留意点

- ・自分の意見をはっきりともって話し合いに参加できるように、アンケートで出た意見は短冊にして教室に掲示しておく、教師から投げかけをしておくようにする。そのため、話し合うこと

3. 「豊かな実践活動」広がりをも

① 学級活動と他の内容・教科等との関連

(学級活動と児童会・生徒会や学校行事との関連、
学級活動や学校行事等と総合的な学習の時間との関連など)

② 「研修・研究」の機会の工夫

(自発的、自治的活動 ※意義の理解と授業実践を)

※第Ⅱ期教育振興基本計画のキーワードを

模擬学級会をしよう

① 模擬学級会のイメージづくり (那須塩原市研修会より)



計画委員会

- ①議題の選定
- ②提案理由の作成
- ③決まっていること (話し合いの条件) の設定
- ④話し合うこと (柱) の作成

②



・議題の決定 ・話し合うこと等の確認

③



話し合い開始前の板書

④



ノート記録

⑤



前半も、ペラランも、進んで発言!

⑥



教師役は、様子を見て、助言を。

⑦



柱①終了時の黒板

⑧



終末の教師の助言

○教育振興基本計画

「教育振興基本計画」と特別活動

（「自立・協働・創造」）

（自立）：集団や社会に適応し、よりよく
生きようとする力

（協働）：互いの個性や多様性を認め合い、
役割を分担し、協力し合う態度

（創造）：より豊かな新しい価値（生活）を
生み出していく力

（H18制定 第Ⅰ期H20～24 第Ⅱ期25～29 第Ⅲ期30～34）

山の学校の 弁論大会改革物語

※《以下本論文から一部抜粋》

●やき少年の「弁論大会への不満」
——選手になった中一のとときから

どういうわけか中一のとときに、やき少年は
いわば選手の一になつた。テーマは先生に
作ってもらい家で作文して先生に見てもら
うのである。しかも、大幅な修正があつた。そ
れだけで意欲が薄れ練習にも身が入らなかつ
たことを覚えていた。練習の意味もあつてか、
町の大会に出場する前に校内で弁論大会なる
行事が実施された。

やがて、町の大会の日がやってきた。へき
地の各地の学校の代表が集集した。

●「弁論大会改革の実現」

(やき少年中二時代の反抗と提案)

一年後のことである。また、弁論大会の時
期がやってきた。そんなある日、やき少年は、
担任教師に訴えた。

「先生、弁論大会なんかなぜやるんだ。運動
会や学芸会などの学校行事とはまるで違って、
一部の生徒がさも立派そうなことをくっちゃ
べって、それを多くの者がただ聞いて、ちっ
とも楽しくない。もう止めたらどうですか。」
「やき何言ってるんだ、弁論大会は弁論大会
のねらいがあつて、中学生には必要な行事だ。
町の大会もある。青少年期に経験させたい大
事を学習だ。」

と言う。それに対して「だったら、なぜ全員
に経験させないのか。」「何だったら、参加者
全員が楽しめるように、休み時間を作って何
かの催し、例えば合奏や合唱などを途中に入
れるという具合に。」と次々にやき少年は反
抗的にも提案までし始めたのである。

○おわりに — やき少年の特活! —

そのとき担任が、「そんなこと言うなら、
やきたちが今の話をまとめてきちんと提案し
責任をもつてやるというなら、校長先生に話
して弁論大会を変えてもいいぞ。」と言つた
ことから、事態は新たな方向に向かうことにな
つていった。

(「ミニ演奏会の提案」と学級の取組)
翌日の朝の会の時間であつただろうか、や
き少年は、

「みんなに相談があるんだけど、弁論大会が
つまらないから、そのやり方を変えるという
提案を先生にしたら、みんなでやることを考
えて責任をもつて取り組むんだつたらいい、
という答えをもらった。みんなで演奏会を途
中に入れたらと思うんだけどどう思う。」と
発言をした。すると、「いいと思うけど、
やきが準備してくれるなら」

やき少年は、担任から糞半紙を一枚いただ
いて持ち帰り、夜遅くまで長屋の暗い電灯の
下で、五線を引きどの楽器をどこでどうと、
それこそ適当に編曲したのである。

それからというもの、休み時間や放課後に
みんなが練習を始めたのである。

(弁論大会・演奏会の日がやってきて)
いよいよその当日がやってきた。
弁論大会とはいって、も数人の弁士が発表す
るだけである。それを、わざわざ二部に分け、
演奏会を挿入しての実施である。

ドン、チャッチャと演奏が始まる。
一人の人間の不満から生まれた提案を二学年の
みんなが受け入れ協働して自発的に練習をし、
今こうして演奏会を実現していると思つたと
き、瞬時に感動がこみ上げてきて、

●山の学校の教育力(指導の柔軟性)
——自発的活動を生かす教師集団が

(ユニークな準備と生徒会活動)

夜間運動会は十八時開催である。十五時過ぎから徐々に会場準備が始まる。その準備がユニークである。やき少年は配達途中に会場準備に立ち寄り、テント張りの仕事をする。青果店に働く者は時間を見つけてライン引きにやって来る。電気店に勤める者は夕刻に照明関係を仕上げに来る。今と違って、百ワツトの電球をいくつも連ねるのである。何とか総力を挙げて運動会開始に間に合わせるのである。

生徒会活動も運動会関連の恒例行事に取り組む。やき少年は四年生になって生徒会の会長を務めることになり、運動会の一か月ほど前には生徒会主催の映画会の実施に取り組んだ。町にある第一劇場の社長に掛け合せて資金作りを成功させるのである。

共に生きる仲間たちのために、無我夢中で燃えた青春時代のダイナミックな集団活動である。